服飾文化共同研究報告 2012
共同研究番号 22009

脚部への美意識とその変容における靴下のデザイン変化
―18・19 世紀初頭の西洋における男性用靴下に対する美意識と現代日本の若年層女性の靴下に対する美意識の比較―

Change of Stockings & Socks Design in Light of the Sense of Beauty towards Legs and its Transformation – The Comparison between the Sense of Beauty on Male Stockings & Socks in the Occident in the 18th and early 19th Century and the Sense of Beauty on Young Female Stockings & Socks in Contemporary Japan

香川 幸子*1✢, 鈴木 直恵*1✢, 瀧本 雅志*2✢ , 鴇田 章*3✢, 野末 和志*4✢, 五十嵐 光二✢
Sachiko Kagawa*1✢, Naoe Suzuki*1✢, Masashi Takimoto*2✢, Akira Tokita*3✢, Kazuyuki Nozue*4✢, and Koji Igarashi✢

＊1 文化学園大学服装学部 東京都渋谷区代々木 3-22-1
Faculty of Fashion Science, Bunka Gakuen University
3-22-1 Yoyogi ,Shibuya-ku, Tokyo, Japan
＊2 岡山県立大学デザイン学部
Faculty of Design, Okayama Prefectural University,
＊3 エークロッシング
A -CROSSING Co., Ltd,
＊4 (有)企画屋えぬ
KIKAKUYA -ENU Ltd.
✢服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学
Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture,
Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract：This study pays attention to the possibly excessive fashion sense towards legs included in the exposure of legs, and aims at clarifying the designability required for stockings & socks and the reasons for which stockings & socks occupy an important position in fashion mainly through fashion in two eras. The one era is the male fashion in Europe from the medieval era through the early 19th century. The other is the contemporary Japanese young female fashion. In the former era, stockings & socks were born from shortened outerwear, and legs, as a part of male beauty, symbolized the power and existed as absolute beauty. Stockings & socks played a role of emphasizing masculinity. On the other hand, in the latter era, legs are highly exposed. Therefore, stockings & socks have become a new fashion item indispensable for co-ordination and means to express personality. This is a particular style unseen in other countries.
This study conducted an attitude survey on stockings & socks as well as a survey on the use of highly trendy contemporary stockings & socks to university students specialized in fashion, and analyzed the tendency. In addition, this study conducted the researches in two French museums, “Les Arts Décoratifs” and “Musée de Vauluisant” and strived to create the database of stockings & socks owned by these

＊1） kagawa@bunka.ac.jp

museums as excellent designs with truly various techniques such as embroidery, watermarks and lace patterns can be seen in female stockings & socks of mainly the 19th century in existence. Then, university students specialized in fashion newly designed stockings & socks based on the surveys and researches, displayed the stockings & socks in “Leg wear exhibition” held in January 2013, and published a leaflet on stockings & socks. These constituted a recapitulation of the study.

要旨：本研究は、脚の露出というファッションスタイルに含まれる脚への過剰ともいえるファッション意識に着目し、靴下に求められるデザイン性及び靴下がファッションにおいて重要な位置を占める理由を2つの時代のファッションを中心に明らかにしていくものである。その一つはヨーロッパ中世期～19 世紀初頭に見られた男性のファッションであり、もう一つは現代の日本の若い女性のファッションである。前者は上着の短縮化によって生まれたものであり、脚部は男性の美しさの一つとして権力の象徴、絶対美として存在した。また、男性性を強調する役割を果していた。他方、後者は脚部の露出度が高く、そのため、靴下はコーディネートには欠かせない新たなファッションアイテムとして注目され、個性を表現するためのこだわりの手段となっている。これは他国には見られない独特なスタイルである。

本研究では、ファッション専攻の大学生を対象に靴下についての意識調査と共に、トレンド性の高い現今の靴下の着用実態調査も合わせて実施し傾向を分析した。また、現存する 19 世紀を中心とする女性用靴下には刺繍、透かし模様、レース模様など、実に様々な技法が施された優れたデザインがみられるため、フランス“Les Arts Decoratifs”、“Musée de Vauluisant”の2美術館での調査も実施し、所蔵する靴下のデータベース化を試みた。そして、それらを踏まえながら新たに靴下のデザインをファッション専攻の大学生が行い、2013 年 1 月に“Leg wear 展”で展示するとともに、靴下についての小冊子を作成し、研究の総括とした。

配当決定額

平成 22 年度	1,210,000 円
平成 23 年度	980,000 円
平成 24 年度	1,347,000 円
合計	3,537,000 円

研究の目的

ファッション史で脚がセンセーショナルに脚光を浴びるのは、1960 年代のミニスカートである。しかしすでに西洋中世期から男性ファッションで上着の短縮化がみられ、その頃からズボンが登場する 19 世紀初頭までの間に、脚部の美を強調するファッションとして靴下は重要な役割を果していた。当時の靴下には全身のファッションと連動した華麗で自由奔放なデザインが創作され、脚への過剰ともいえるファッション意識がみられたが、近現代ファッションの対象が女性中心へ移行するにつれ、それは殆ど顧みられることがなくなった。しかし、脚部のファッションというテーマに沿って考えるならば、その時代の男性の脚は大きなファッション史上の問題とならざるを得ない。

一方、現在の日本の若年層の女性の脚のファッションは、脚部の露出度が高く、その結果、靴下は彼らのファッション感覚のうえで大きな位置を占めている。この現象は他の国には見られない独特なファッションスタイルといえる。

本研究は、脚の露出というファッションスタイルに含まれる脚への過剰ともいえるファッション意識に着

目し、靴下に求められるデザイン性および靴下がファッションにおいて重要な位置を占める理由を、靴下のデザイン、美意識の比較などを通して明らかにすることを目的とする。

研究の方法

上着に関する資料に比べ靴下は残存する物的資料が少なく、それも一因となって当該領域に関する学術研究は十分になされていない現状にある。そのため、本研究は次の二つの時代のファッションを中心に研究を進め、時代を超え靴下がファッションにおいて重要な位置を占める理由を明らかにしていきたいと考えている。また、最終年度には展覧会の開催と小冊子を作成し研究の総括とする。

1. ヨーロッパ中世期～19 世紀の靴下とそのファッション

①“Les Arts Decoratifs”、“Musée de Vauluisant”、文化学園服飾博物館が所蔵する靴下を調査する。

②文化学園図書館貴重書デジタルアーカイブを中心に資料収集する。

2. 現代日本の若い女性の靴下とそのファッション

①若年層女性を被験者とする調査を実施する。

ⅰ脚部への意識と靴下の関係についてのアンケート調査

ⅱファッション誌からファッション性の高い靴下の抽出

ⅲ被験者が所持するファッション性の高い靴下とそのコーディネートの提示

②若年層女性が靴下を創作する。

ⅰデザイン画で表現する靴下のデザイン

ⅱインクジェットプリントによるタイツのデザイン

研究の実施計画

[22 年度]

1. 文化学園図書館貴重書デジタルアーカイブから本研究に該当するヨーロッパの中世期～19 世紀における脚が露出したファッションの図版や靴下関連の資料を収集する。

2. フランスの 2 博物館（“Les Arts Decoratifs”、“Musée de Vauluisant”）が所蔵する靴下の現物資料や図像資料から情報を得、靴下の色柄、装飾、素材等の情報をデータベース化する。

[23 年度]

1. 東京にて、服飾を専攻する女子大学生を対象に 3 種類の調査を実施する。

①女子大学生 410 名が「靴下がファッションポイント」となるコーディネート写真をファッション誌から1人2枚抽出した資料を収集し分析する。

②女子大学生 394 名が「靴下がファッションポイント」となるコーディネートを行い、その結果を撮影した写真と使用した靴下の写真を各 394 枚収集し分析する。

③女子大学生 197 名を対象に「脚部への意識と靴下の関係について」のアンケート調査を実施する。内容は靴下の着装実態、脚部の露出との関係、ファッション意識や視覚的なイメージ評価である。

④女子大学生 394 名がオリジナルな靴下をデザインする。

⑤文化学園服飾博物館が所蔵する靴下のうち、現物資料・画像資料について調査する。

⑥靴下編機についてウィリアム・リーから最新の機器に至る情報を収集する。

[24 年度]

1.パリで服飾を専攻する学生を対象にアンケート調査を実施し、靴下の着装実態、ファッションに対する意識等を問い両国の違いをみる。

2.若い女性の美意識を反映させた柄をタイツにプリントする。
3.全体の総括を行い、その集大成として靴下の展覧会を開催する。
4.靴下についての小冊子を作成する。

研究の成果

[22 年度]

文化学園図書館貴重書デジタルアーカイブから本研究に該当するヨーロッパの中世期～19 世紀における脚が露出したファッションの図版を収集した。脚部への意識と靴下の関係は、男性と女性では全く異なる意味合いを持つ。男性は 17 世紀・18 世紀の絶対王制のなかで、男性の美しさの一つは脚部にあり、権力の象徴として力強い絶対美の記号として存在した。特に絹の白の靴下は地位の象徴でもあった。また、女性の脚部はスカートの下に隠されていたが、男性と同じように絹の靴下は重要な持ち物の一つであった。

1

2

3

4

5

6

7

8

Fig.1　Digital archive of Bunka Gakuen Library　　図 1 文化学園図書館所蔵デジタルアーカイブ

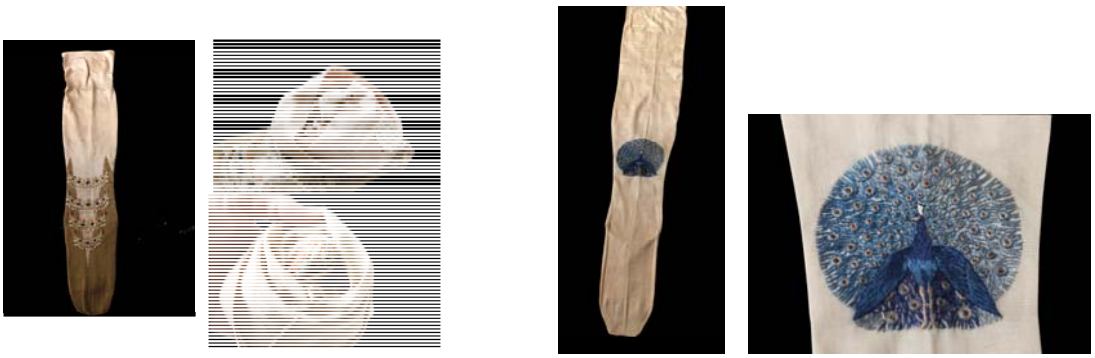
また、本研究では現物資料の閲覧・確認作業をする必要があると考え、フランスの博物館 2 箇所で現物あるいは代替資料の調査を行った。一つはパリにある“Les Arts Decoratifs”である。靴下を 2008 点所蔵しており、そのうち 82%がデータ化されていた。17 世紀以前の靴下はなく、また、18 世紀も女性用 4 点と非常に少ない。他方、19 世紀の靴下は 528 点所蔵しているが、男性用は 19 世紀後半に製造された黒の絹靴下 1 点だけであった。現物調査はできなかったが、館内資料室で閲覧できるデータベースから 18 世紀～20 世紀初頭の靴下を半世紀毎に分類し、時代別の情報を収集した。

一方、トロワにある“Musée de Vauluisant”が所蔵する靴下はすべて 19 世紀以降のものであった。美術館には現物が展示されているが、収蔵庫にある靴下 23 点の写真撮影が許可されたため、それらについて調査を実施した。トロワは 18 世紀後半にはすでにフランスの代表的なニット産業地としての地位を確立し、今日に至っている。所蔵品には見本市等へ出展した際の製品・技術の高度さを示す展示用が含まれるため、実際に人々が身につける靴下とは異なる位置にモチーフが配置されている靴下もみられた。

文化学園服飾博物館が所蔵する靴下のうち、11 点の現物資料を調査した（平成 23 年度実施）。

18 世紀末に長ズボンが登場すると男性用靴下は次第にシンプルなものになったが、靴下は衰退の途を辿らず、今度は女性のファッションにおいて開花していった。王政復古頃に女性のドレス丈が短くなり踝が見えるようになると、繊細な装飾が脚部へ集中した。19 世紀の女性用靴下のモチーフは花模様が多かったが、ベルエポックの時代には格子や縞柄、黒いレースを組み合わせた靴下が好まれ、刺繍、カットワーク、スパンコールなど、鍛錬を積んだフランスの職人技による繊細で華麗な手工芸が廃れることなく機械編みと共存して自由なデザインを生み出していた。

ca.1850　ca.1850ー1860　1890　1900　1920



1890　1925

Fig.2　Silk stocking with embroidery in Musée de Vauluisant

図 2 刺繍を施した絹靴下，ヴォリュイザン博物館

ca.1740-70

1810－1820

Fig.3　Silk stocking in Bunka Gakuen Costume Museum Collection

図 3 絹靴下　文化学園服飾博物館所蔵

靴下を男性ファッションのポイントとする服装は 16 世紀から 19 世紀初頭に至るまで続いたが、この期はウィリアム・リーが発明した 1589 年の足踏み靴下編み機を始めとして靴下編み機が著しく発達した時代でもあった。リーの最初の機械（1589）は優秀な手編み職人の 6 倍の速さ（1 分間に編み機は
1インチ 8 目で 600 目、熟練者は 100 目）という革命的な発明で、1598 年には 1 インチ 20 目、1 分間 1200 目と改良を重ねていった。手編み職人の失業を恐れたエリザベス女王は専売特許の発行を認めず、不遇の内に 1610 年に生涯を終えたが、リーの弟と徒弟らに継がれ、リーの改良型編み機はイギリスで製造が始められ、やがてヨーロッパ各国へも普及していった。日本では明治 6 年（1873 年）に文部省から刊行された『教育錦絵』の欧米に範を求めた「泰西偉人伝」の中で、リーはジェームス・ワット、リチャード・アークライトらとともに描かれている。

Fig.4 “KyoikuNishiki-e”
(educational wood block prints)
図 4 “教育錦絵”（教育用木版画）
文化学園図書館所蔵

[23 年度]

東京にて、服飾を専攻する女子大学生を対象に調査（1・2・3）を実施した。

調査 1 ではファッション誌から「靴下がファッションポイント」となるコーディネート写真を 840 枚収集した。調査 2 は同様のコーディネートを実際に女子大学生が行い、その全身と靴下の写真を各 394 枚撮影したものである。

得られた情報は、調査1・2ともにブランド、種類、価格・色・柄・素材・技法・付属品・イメージ別に分析した。その結果、2つの調査ともに、靴下の種類はソックスが半数、次いで、ニーハイ 2 割弱、ハイソックス 1 割、柄はボーダー、レース 2 割、水玉、ストライプ、花柄、シースルーが1割弱、それに対し、無地が3割強を占めていた。服装全体のイメージも共にガーリー系が半数を占めていたが、ファッション誌では靴下はカジュアル系が使われているのに対して、学生自身のコーディネートは靴下もガーリー系を組合せる傾向が見られた。

Fig. 5　Research2　Coordinates of socks & stockings　　図 5　調査 2　靴下のコーディネート

調査 3 の「脚部への意識と靴下の関係について」のアンケート調査結果では、おしゃれへの関心度が高く、3 割以上が日常的にミニスカートを着用し、自分の脚部の露出に関しては 8 割近くが気にしておらず、異性が脚部をみてもなんら抵抗も持たないことが分かった。ただ、下着がみえることには抵抗を持っていた。また、靴下は安価であるため、コーディネートやイメージつくりが簡便に行うことができ、ファッションにおいて重要なアイテムであると認識していることが明らかになった。

[24 年度]

日本の靴下ファッションは他国にはみられない独特なファッションスタイルを生み出している。そこで、パリにおいてもアンケートを試み、両国の違いを考える。調査は 4 月から 6 月にかけてパリで実施した。被調査者はファッションを専攻する女性 46 名である。可愛らしさ、カジュアルさを求める傾向にある日本人に比べて、ファッションタイプはフェミニン系が半数を占め、コーディネートでも上品さや女性らしさ、自然らしさを求めるなど相違がみられた。また、靴下に対するこだわりは日本人の方が強い傾向にあった。

本研究では得られた情報を予備知識として女子大学生 64 名に与え、そこからデザイン発想へ展開し、プリント模様を施したタイツの創作を行った。そのうちの 25 足は成果発表の会場で展示し、来場者に評価を問うた。

成果発表

1. 文化ファッションインキュベーションセンター（東京都渋谷区桜丘町）にて、『Leg wear』展（期間 2013 年 1 月 24 日～26 日）を開催した。内容は本研究の概要を紹介したものである。
2. 小冊子『靴下のお話』を作成した。靴下の入門書的内容であり、靴下のデザインを考える上での一助となるよう、デザインバリエーションの事例を提示している。

Fig.6　Design of tights

図 6　タイツのデザイン

Fig.7 Exhibition“Leg wear”　図 7 “Leg wear”展

Fig.8　“The story of socks & stockings”　図 8“靴下のお話”

図版出典

Fig.1

1. [Collection of costumes of the XVIIth century in France]　Paris : Che Bonnart [frère] , 1675-1695
2. [Collection of costumes of the XVIIth century in France]　Paris : Che Bonnart [frère] , 1675-1695
3. Collection d'habillements modernes et galants avec les habillements des princes et seigneurs
   [Paris] : [s.n.] , [ca. 1781]
4. Journal de la mode et du goût, ou Amusemens du sallon et de la toilette　Paris : Buisson , 1790-
5. Journal de la mode et du goût, ou Amusemens du sallon et de la toilette　Paris : Buisson , 1790-
6. Collection d'habillements modernes et galants avec les habillements des princes et seigneurs
   [Paris] : [s.n.] , [ca. 1781]
7. Collection d'habillements modernes et galants avec les habillements des princes et seigneurs
   [Paris] : [s.n.] , [ca. 1781]
8. The coronation of His Most Sacred Majesty King George the Fourth : solemnized in the collegiate church of Saint Peter Westminster upon the nineteenth day of July MDCCCXXI
   London : Henry Geoege Bohn , 1837